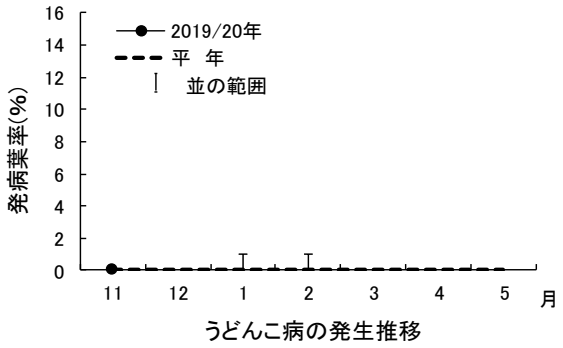
平成　31 年度　　12 月予報

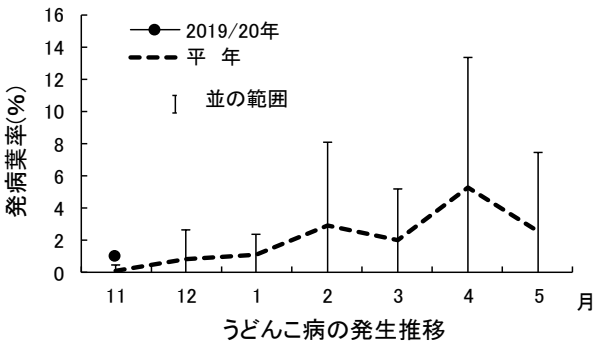
| 作物 | とうがん | | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ①　うどんこ病 | | | |
| 予報 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| | 11 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| 予報の根拠 | 11 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| | その他<br>(気象要因など) | 平年の発生量の推移（↗） | | |

調査結果

今期と平年の推移(中央値)




今期と平年の推移(平均値)




・発生ほ場率：20%（平年値：4.3%）

防除のポイント

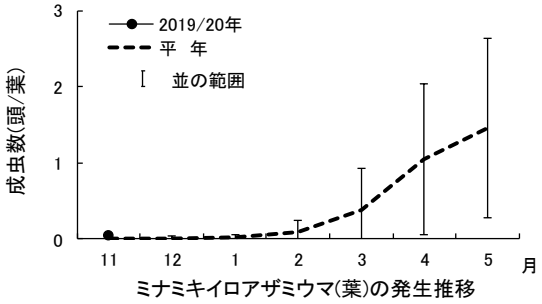
・発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
・除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
・薬剤防除は予防散布に重点をおく。

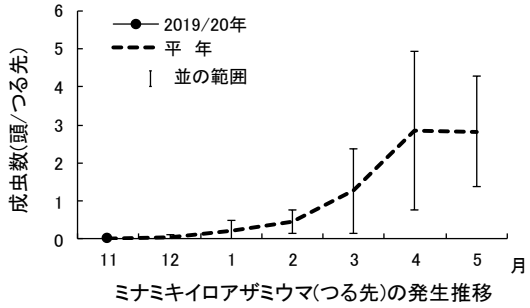
平成　31 年度　　12 月予報

| 作物 | とうがん | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ②　ミナミキイロアザミウマ | | |
| 予報 | 12 月の発生量（平年比） | 並～やや多 | |
| | 11 月からの増減傾向 | → | |
| 予報の根拠 | 11 月の発生量（平年比） | やや多 | |
| | その他<br>（気象要因など） | 平年の葉の発生量の推移（→）<br>今後１か月の気温が平年より高い見込み | |

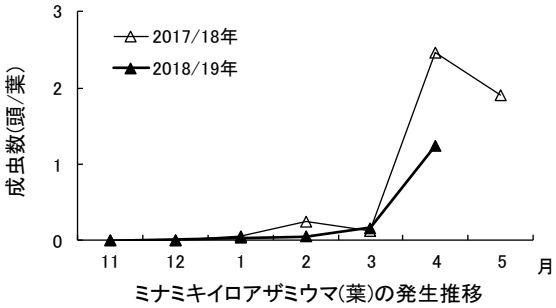
調査結果

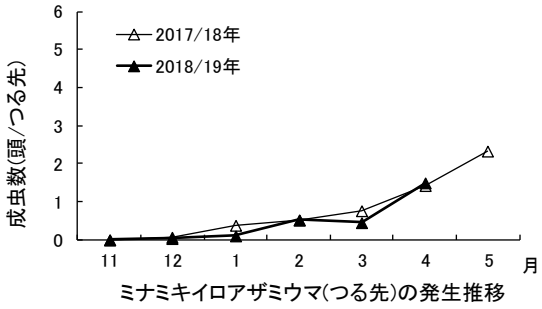
今期と平年の推移




過去2年間の推移




・発生ほ場率：40%（平年値：2.1%）

防除のポイント

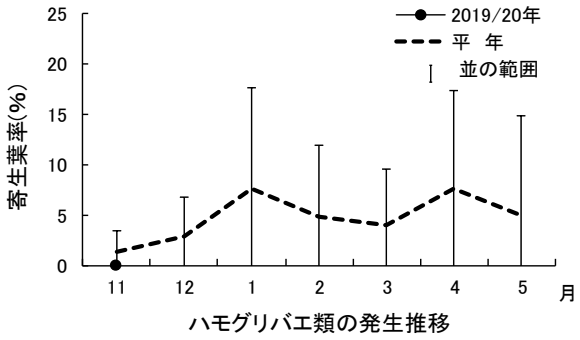
・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
・除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成　31 年度　　12 月予報

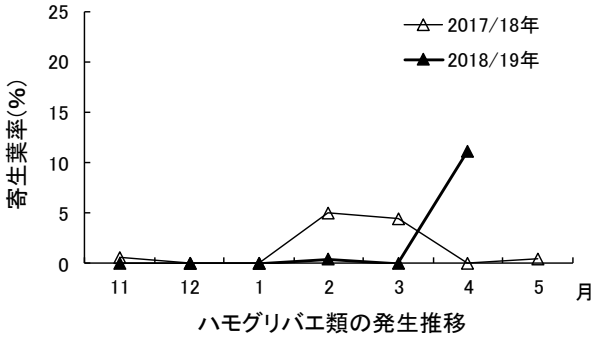
| 作物 | とうがん | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ③ ハモグリバエ類 | | |
| 予報 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | |
| | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| 予報の根拠 | 11 月の発生量（平年比） | (発生なし)並 | |
| | その他<br>(気象要因など) | 平年の発生量の推移（↗） | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移




・発生ほ場率：0.0%（平年値：19.1%）

防除のポイント

・施設内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。

・幼虫期間が比較的短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。

・農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

・老葉や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

幼虫の死骸

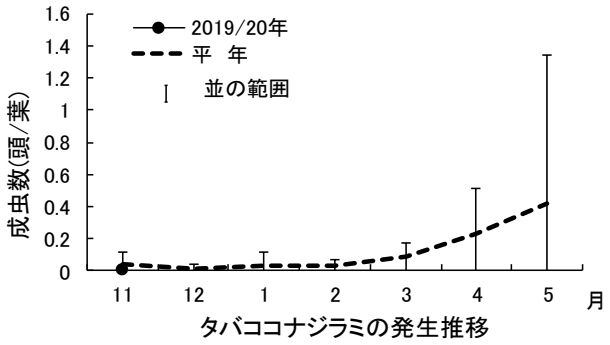
（農薬などで死亡すると黒色に変色）

平成　31 年度　　12 月予報

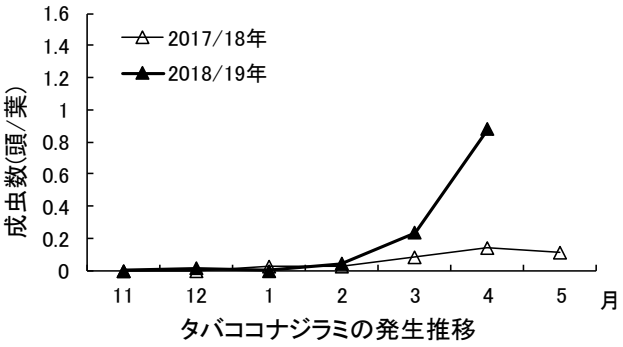
| 作物 | とうがん | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ④ タバココナジラミ | | |
| 予報 | 12 月の発生量（平年比） | 並 | |
| | 11 月からの増減傾向 | → | |
| 予報の根拠 | 11 月の発生量（平年比） | (発生なし)並 | |
| | その他<br>(気象要因など) | 平年の発生量の推移（→） | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移




・発生ほ場率：0.0%（平年値：12.8%）

防除のポイント

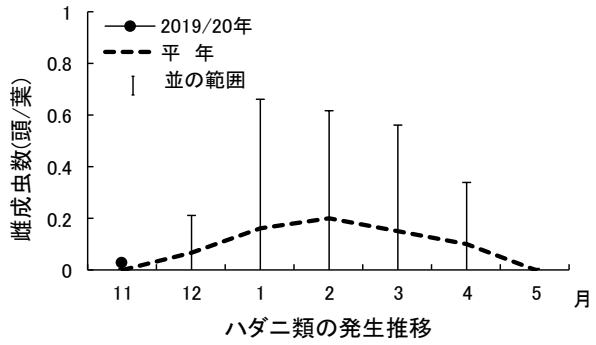
・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
・薬剤抵抗生を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成　31 年度　　12 月予報

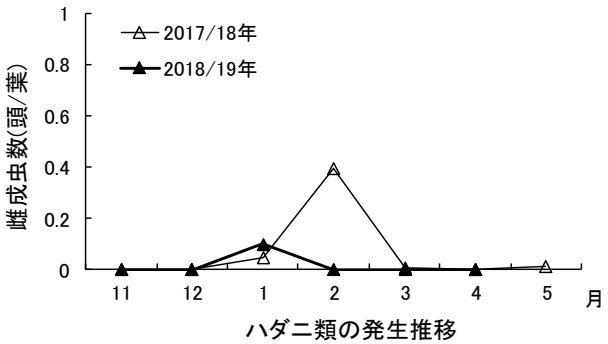
| 作物 | とうがん | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ⑤ ハダニ類 | | |
| 予報 | 12 月の発生量（平年比） | 並～やや多 | |
| | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| 予報の根拠 | 11 月の発生量（平年比） | 多 | |
| | その他<br>（気象要因など） | 平年の発生量の推移（↗）<br>今後１か月の気温が平年より高い見込み | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移




・発生ほ場率：40.0%（平年値：2.1%）

防除のポイント

・気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。